

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

*****: 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC: 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

: パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

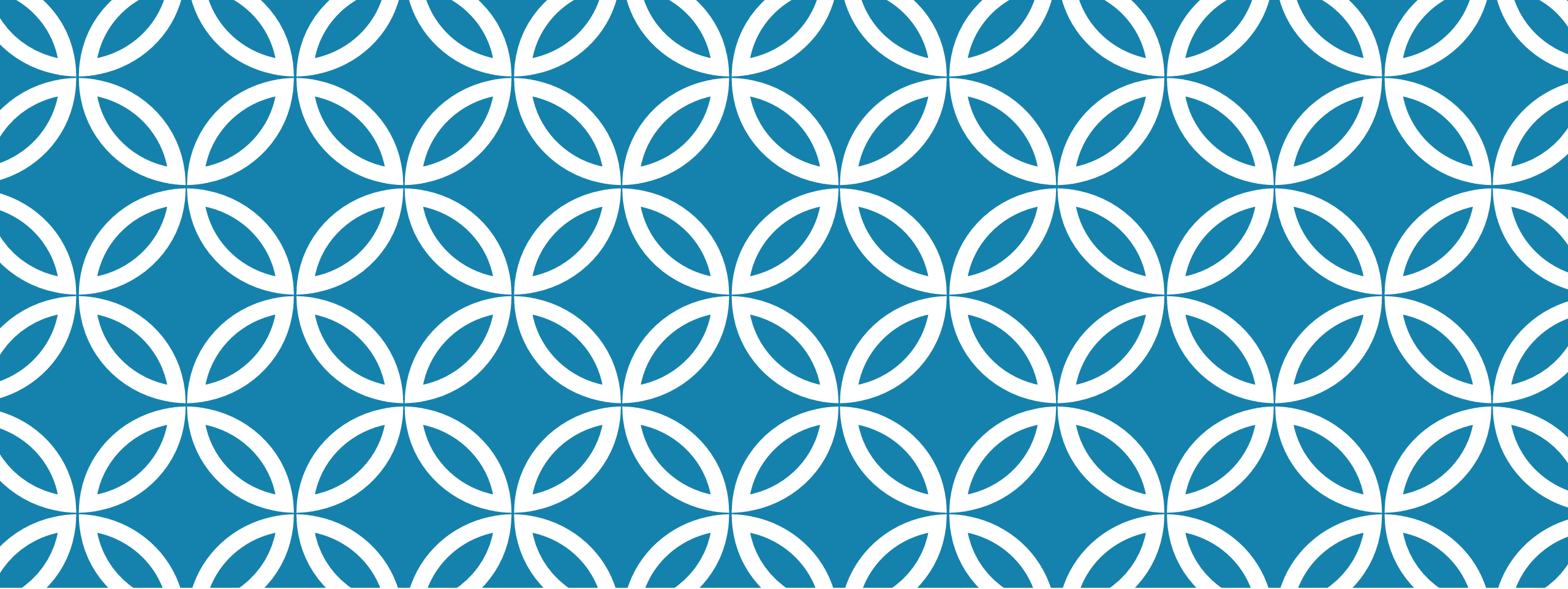
なし: 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。
無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2014, 佐藤仁

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”
Copyright 2014, Jin Sato



環境統治の時代

佐藤仁
東京大学東洋文化研究所

私にとっての「共存」問題







*

自然が豊かなラオスは、なぜ自然を壊してきた先進国に自然の守り方を教わらなくてはならなかったのか。

ラオスのルアンプラバン郊外







今日の結論はこれです。

- ・「環境統治」とは現象であると同時に一つの視点の取り方です。それは「していることがしていること」を問います。たとえば、森林保全は森林を守る以外に何を引き起こしている、を問います。
- ・ 国家による環境支配が全面化した今日、その環境統治を問わなくてははいけません。それは国家の環境支配が、いかに人間の支配に転じているか、を問うことです。
- ・ 環境統治の性質を理解するには、それを呼び込んだ「前史」を解き明かさなくてはなりません。前史とは、「開発の時代」と「環境リスクの時代」です。

「開発の時代」とは分業と規律が徹底する時代でした。

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和8年9月号〈5挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.29)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和9年新年号〈4挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.61)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和9年4月号〈1挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.109)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和9年3月号附録
海賊島の秘密〈76挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.108)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
少年倶楽部22-1附録
ダン吉島の暴れ正月〈表紙〉
(『冒険ダン吉漫画全集』講
談社、1967年 p.183)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和9年5月号〈2挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.118)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和9年9月号〈1挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.149)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
少年倶楽部22-1附録
ダン吉島の暴れ正月
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.184)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和10年2月号〈4挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.218)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
昭和11年8月号〈4挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.364)

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像
を削除しました。

島田啓三
『冒険ダン吉』
少年倶楽部22-1附録
ダイヤ島の冒険〈12挿絵〉
(『冒険ダン吉漫画全集』
講談社、1967年 p.200)

分業は、知らない人の力を役立てる方法です。

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除
しました。

モダン・タイムス
(原題「MODERN TIMES」)
公開 1936年
監督 チャールズ・チャップリン

スミスのみた分業の利点

- 1) 技量の向上
- 2) 時間の節約
- 3) 機械発明の誘発

過度の分業は、人間の内に向かうリスクを作りました。

われわれは、機械類が婦人労働、児童労働を取り込むことによって、いかに資本の人的搾取材料を増やしていくか、また機械類が労働日を節度なく延長することによって、いかに労働者の全生活時間を没収していくかを見た。そして最後に、ますます短時間に大量の生産物の供給を可能にする機械類の進歩が、ついには各瞬間ごとにより多くの労働を放出させ、労働力の搾取をますます高密度化するためのシステムティックな手段として用いられる様子を見てきた。

（マルクス『資本論』第一巻第13章第四節「工場」）

カール・マルクス『資本論第一巻 下（マルクス・コレクション5）』
今村仁司・三島憲一・鈴木直訳、筑摩書房、2005年、74頁より引用。

環境リスクの時代 – 危険の生産と拡散

- 開発が自然界に与える負の影響を社会全体として認識し、そうしたリスクは制度や技術の工夫によって抑え込むこと（コントロール）できるという信念が確立される時代のこと。
- 先進国では1960年代、タイやマレーシアといったアジアの中進国では1970年～80年代、ラオスやカンボジアなどの後発国では1990年代以降がこの時代に重なる。

環境リスクは、忘却、転嫁、隠ぺい、合理化されます。

世界銀行のサマーズ・メモ

「ここだけの話、公害は先進国から途上国に輸出することが効率的である」

1) 健康を害するような公害のコストは、それがなければ稼ぐことができたであろう所得によって推計される。このコストは、賃金が最も低い地域で最も低くなる。

2) 公害の及ぼす悪影響の大きさは、その初期においては相対的に最も小さいと考えられる。つまり、全体的な影響の大きさを減らすことは、汚れた地域からきれいな地域、つまり「公害途上」の国々に移していくことで可能になる。

3) きれいな環境に対する需要は、所得弾力性が高いので、高所得水準の国々における「公害輸出するために支払う意思」の高さは「厚生水準を高める」貿易につながる。

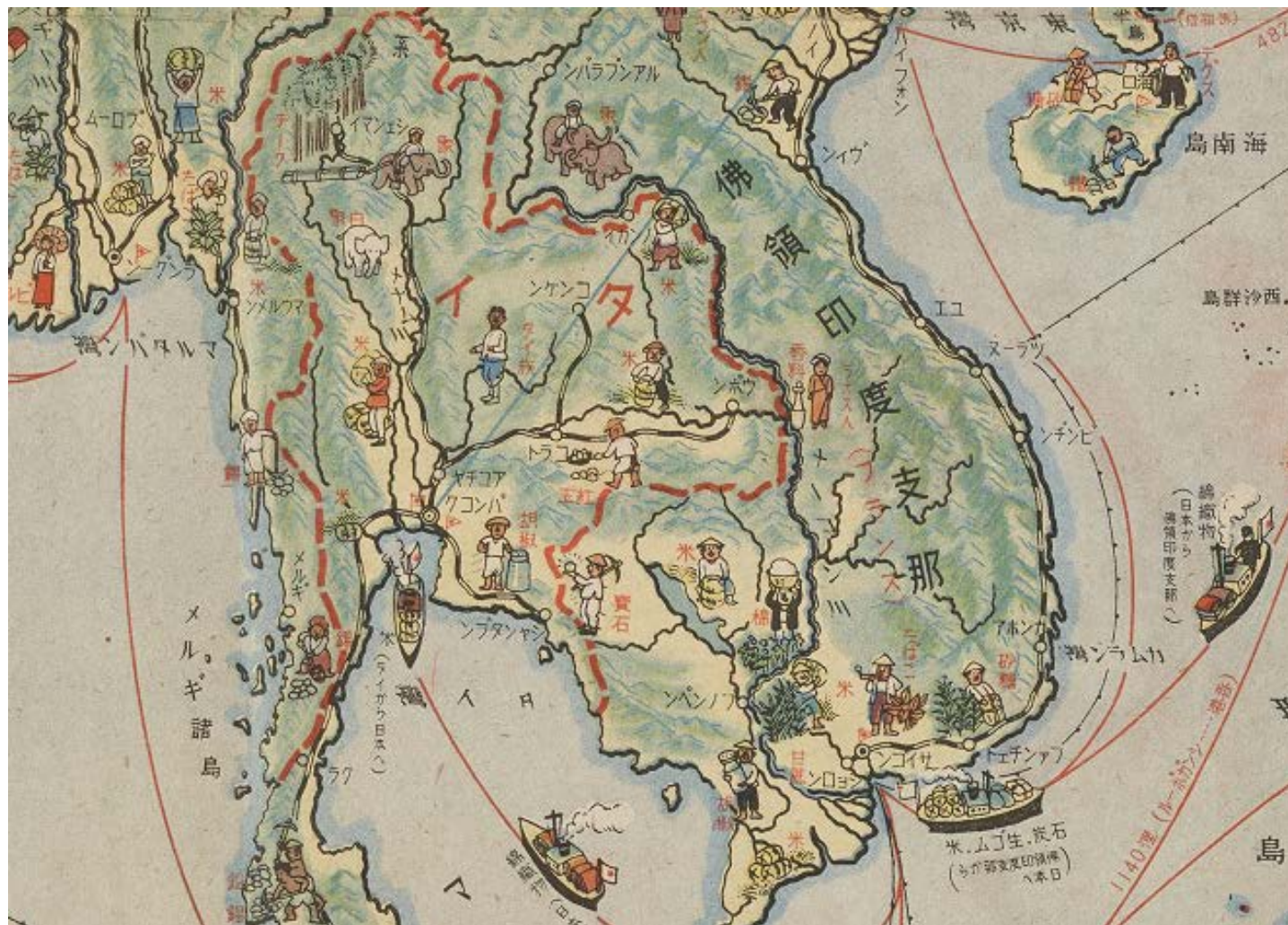
環境統治の時代ー相互調整の時代

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

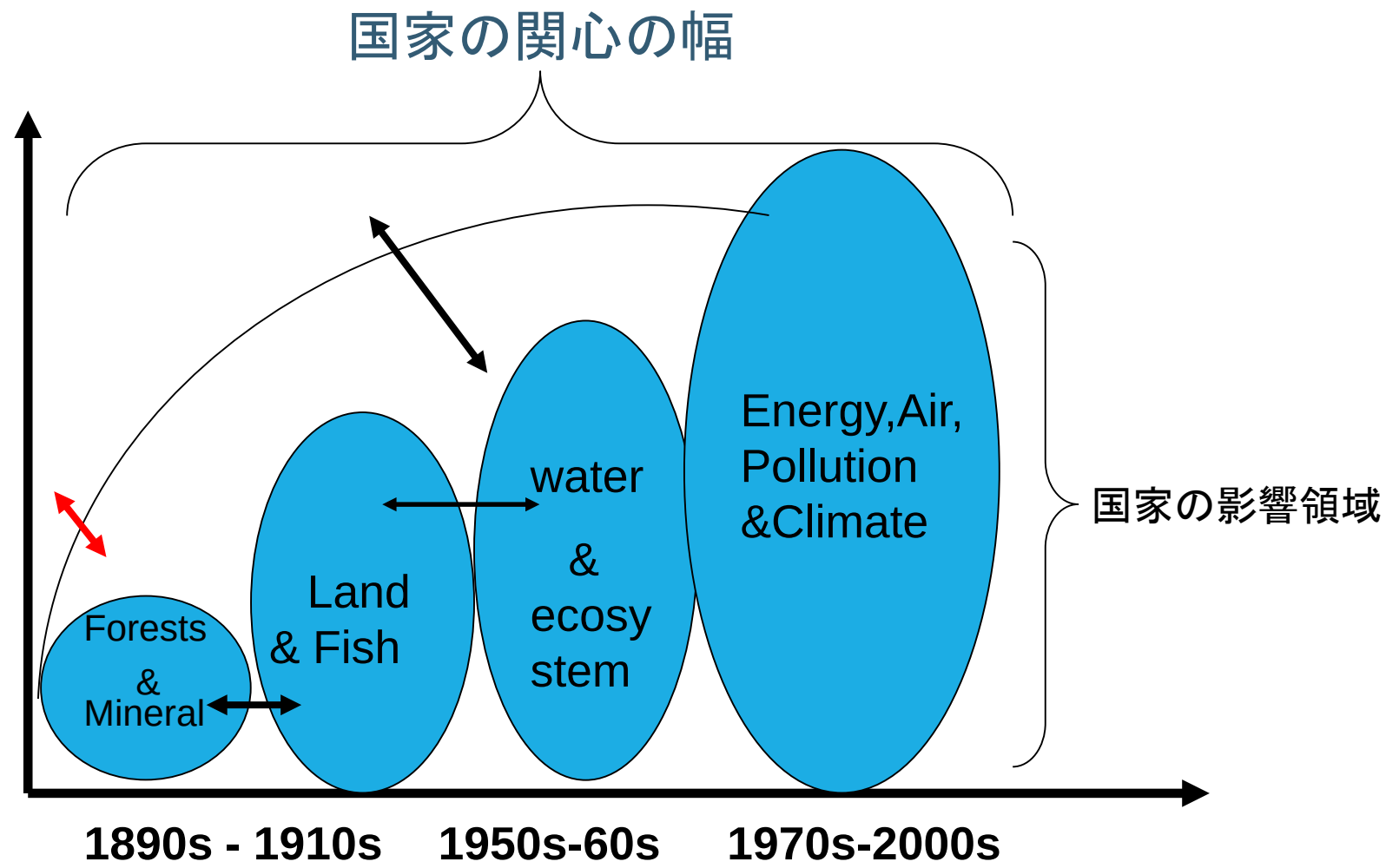
写真「川ざらいの風景」
http://www.sakuracom.jp/~kyoudoshi/yousui/page1_rekishi.htm

- 「大量の水は、大量の労働をもってのみ配水され、ひととこで治水される。そして、この労働力は、調整され、規律化され、指導されなくてはならない」（ウィットフォーゲル）
- 支配ではなく、統治
- 抵抗力の源泉は、資源の性質にもある。「2ペニーの価値もない物体を放り込むだけで我々は機関車を止めてしまうことができるのだ」（フランスの鉄道労働者のことば）

資源の支配とは？



「大東亜共栄圏パノラマ
地図」の一部
(『少年倶楽部』第28巻
第1号〈付録〉1941年)



自然環境の側面	介入の技術	介入の動機	介入の効果
商品としての資源 (チーク、錫)	法律と 個別科学	歳入向上 紛争予防	排他的権利概念の導入
地租としての資源 (土地、林地)	地籍図と統計、 徴税	財源の安定化 境界紛争の予防	後見人としての政府 地籍による排除と包摂
動き回る資源 (農業用水、魚、家畜)	インフラ施設、 住民組織化、 マーケティング	生産量の拡大 作物輸出	重点地域とそれ以外の 経済格差、指揮系統の確立
保護対象としての資源 (動植物の生息地)	種別の地図、 境界決めとパ トロール	国際規範、国威発 揚、国土保全	国有地の拡大と山地民への 圧迫、国家権力の末端浸透
近接的な人間環境 (空気、土壌、水、獣害、廃 棄物)	法律に基づく 規制と執行、 施設近代化、 健康管理	健康の維持と公害 の予防、観光の促 進	科学的知見と「許容量」 に基づく “安全システム”の導入
外環的な人間環境 (生物多様性・気候)	モニタリング、 教育・啓蒙	国際規範の遵守、 経済インセンティブ への転化	環境政策における科学的知見 の特権化、国内資源の国際管 理化

環境統治時代の自由

- 優越的な支配から、自律的な領域を守っていくこと。
- グローバリズムの受容力を高めること。
- 時差と速度に注意をはらった開発／環境政策を立案していくこと。

朝日講座第5回 佐藤仁先生

グループ・ワークのテーマ

発展途上国の資源、環境をめぐる政策のあり方について、
先進国の問題解決法を輸入することで解決できるという案に
賛成ですか、反対ですか。